



野生植物研究所だより



～ いよいよ夏本番... 貴重な花と繊細な花・2種類をご紹介します ～

● 化女沼に自生していた貴重なヒツジグサ ●



県の依頼で、1985年から1986年にかけて化女沼治水ダムの建設に伴って影響を受ける植物の保護(特に水生植物)を目的とする調査を行ないました。その報告書を1987年に「化女沼治水ダム建設工事に伴って影響を受ける植物の保護を目的とする調査報告書」として提出しました。その時には特記すべき植物として、コウガイモ、ミズニラ、オオトリゲモ、ガガブタなどをあげましたがヒツジグサは沼の周辺部全体にあるものですから、特にとりあげることもありませんでした。1995年、再度調査し、「古川市化女沼ダム本体完成に伴う試験湛水による植物への影響調査報告書と移植による保全対策についての提案」として報告書をまとめました。その報告書では、水生植物として、ウキヤガラ、アシカキ、コバノヒルムシロ、ホソバミズヒキモ、ジュンサイ、ヒツジグサ、ヒメビシ、ガガブタ、ミズニラ、センニンモ、トリゲモ、オオトリゲモ、コウガイモ、フサモ、ホザキノフサモ、イヌタヌキモなど、39種類もあげることができました。その後、池を5つ造成し、移植を行いましたが、ダム本体完成に伴う試験湛水が冬場だけで終わらず、夏近くまでかかってしまい、すべての水草が3～4mの水中に沈み、ハスをはじめ多くの水生植物が枯死してしまいました。1996年の報告書では、ミズニラやヒツジグサ、ジュンサイ、コバノヒルムシロ、ホソバヒルムシロ、センニンモ、フサモ、ホザキノフサモなどが消滅してしまい、確認できた水生植物は12種類だけとなりました。その時の一部のヒツジグサを発砲スチロールの中で育ててきました。

この写真のヒツジグサは化女沼に自生していた貴重なヒツジグサといえます。

● キキョウ科 シデシヤジン ●



シデシヤジンは産地に生える多年草。茎は直立し、50～100cmになり、全体に粗毛を散生します。葉は長さ5～12cm、巾2.5～4cm、へりには不整のきょ歯があります。花は7月～9月にかけて、茎上部で分枝し、総状花序を作って紫色の花を開きます。苞およびがくは線形、花冠は基部から5深裂し、裂片は線形で長さ約1～1.2cm、反曲し、



離弁状にみえます。雌しべの花柱は長さ1～1.2cmで、長くつき出、柱頭は3裂します。雄しべは5個、やくは線形、花糸と同じ長さです。本州、九州、朝鮮、満州等に分布します。宮城県では、県民の森や角田市小田、石巻市牧山、丸森町次郎太郎山など県内に広く見られます。紫色の反曲した裂片を持つシデシヤジンの花すてきですね。

【連絡先】 〒989-6252 宮城県大崎市古川荒谷字寶ノ子町 12-2 ☎ 0229-28-3601 FAX 0229-28-4452

Blog: <http://plaza.rakuten.co.jp/wakichi/>

E-mail: nagaguduwakichi@yahoo.co.jp

URL: <http://www.wakichi.com/>